

# 日技指定研修

## 「顎口腔機能学」

### 企画主旨

1989年（平成元年）の全国歯科技工士教育協議会において、教育内容、年限、養成者数などの検討が始まり、1992年12月（平成4年）に「歯科技工士養成所指定規則」が改定され、歯科技工士教育の教授要綱が改められた。その中で新科目の設置が行われ、新たに登場した学科目が「顎口腔機能学」である。この新学科目には2つのポイントがあり、1つはそれまで「歯冠修復技工学」と「有床歯科技工学」の『下顎運動と咬合器』の章でそれぞれ学んでいたものを統一・整理し、「咬合の知識・咬合器の取り扱い」として示した。もう1つは顎口腔系の解剖学・生理学が歯科技工士教育に取り入れられたことである。

全国での教育開始時期に差はあるが、概ね41歳が境になる。つまり41歳以上の方々は養成所、教育機関において履修科目に入っていなかったことになる。平成26年の厚生労働省「保健衛生行政業務報告」でみると、就業歯科技工士の約7割以上の歯科技工士がこの年代であり、上記の分野に関しては学んでいないのである。

そこで日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授 小出馨教授に監修していただき、同大学講師の小出勝義先生に「日本歯技」サイエンスで2回にわたり“「顎口腔機能学」をわかりやすく！”の執筆をお願いした。この章をテキストとして「日技指定研修」の講演を依頼し、実施に至った。多くの会員皆様が参加して下さり、明日からの臨床に役立てていただければ幸いである。

### 講演 1

- ・ 講師：小出 馨 教授

日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科補綴学第1講座

日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学 主任教授

- ・ 演題：『顎口腔機能学』をわかりやすく！

～ これからの歯科技工に求められていること ～

### 講演 2

- ・ 講師：森野 隆

公益社団法人 日本歯科技工士会 副会長

- ・ 演題：『顎口腔機能学』をわかりやすく！

～咬合器設定のちがいによる臨床例～